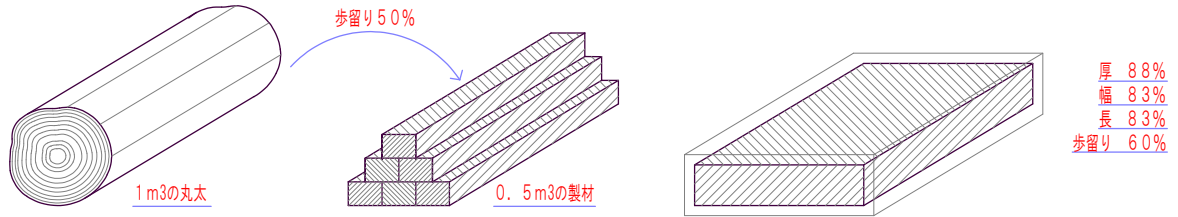


## 木材の歩留り

木材の価格を決める最大の要素が“歩留り”です。

歩留りとは、原料の材積に対して、加工後の製品の材積がどれくらいになったかを示す割合の事で、歩留りが低いほど木材価格は高くなってしまいます。



たとえば、1本1 m³の丸太から0.5 m³の製材が取れたとすると、この歩留りは**50%**という事になります。

あるいは34x120x2400というサイズの製材から、30x100x2000の仕上げ材を製作したとすると、この時の歩留りは**約60%**ということになります。

このように、木材は加工度が上がるほど材積が小さくなっていくので、おのずと単価が高くなっていきます。歩留りをいかに高めるかが、木材価格を大きく左右するのです。

ただしここでもう一つ重要となるのが、木材の「美観」や「性能」の問題です。

木材は、造作材であればその美観が、構造材であればその強度が、それぞれ“**商品価値**”となるため、それらの要件を満たした上で歩留りを追及していかなければなりません。品質条件の厳しい製品では、それだけ木材の歩留りが低くなる可能性が高いため、価格は高くなる傾向がありますし、一方で品質条件の縛りの少ない製品は、歩留りが上がって低価格で供給できるということになるのです。

シュミレーション：1 m³の丸太からの採材をする場合

グレードと価格	高質材を専門取り		低質材を専門取り		高/低質材の取り合わせ	
高質材(価格:25)	0.3 m³	<b>30%</b>		<b>60%</b>	0.2 m³	<b>50%</b>
低質材(価格:10)			0.7 m³		0.3 m³	
	価値歩留	<b>7.5</b>	価値歩留	<b>7.0</b>	価値歩留	<b>8.0</b>

実際の木材製造の現場では、素材個々の形状やサイズなどを考慮して、低質材を多く取るべきか、高質材を狙って取るべきか、といった判断を常に行ないながら、最もバランスの取れた木材の使い方をしよう心がけております。

昭和木材では、単に木材のボリュームの歩留りを高めるのではなく、木材の持つ価値を総合的に最大化する歩留り“**価値歩留り**”の向上に努めております。